



贈呈された機材を使って道徳の授業を受ける児童たち

学校間の遠隔授業に役立てて

【東神楽】建設関連資材の販売会社「ゼストシステム」（東神楽、安井文期社長）は、インターネットを通じて学校と学校をライブ中継で結ぶ「遠隔授業」に使われる機材を町に贈った。忠栄小が来春に東神楽小に統合されることを受け、町は機材を統合に向けた合同授業などで活用する。

同社が町に贈ったのは55インチのモニター2台と小型カメラ6台（計100万円相当）。学校などのパソコンとつなぎ遠隔授業に役立ててもらおう。また、複数台のカメラを使って、教室全体の様子や黒板、教壇の教材などを一つのモニ

東神楽 ゼストシステム、町に機材贈る

ターに同時に映すこともできるといふ。

同社はかつて町の誘致で旭川から東神楽に本社を移した縁があり、機材贈呈を決めた。10月30日の贈呈式では、安井社長らが東神楽小を訪れ、山本進町長に目録を手渡した。安井社長は「子供たちの教育に少しでも役立ててもらえればうれしい」と話した。

2校は同日に初めて機材を導入した合同授業を2年生の道徳の時間で行った。山本町長は「大変ありがたい。こういった地域の力を子供たちへの教育に注いでいきたい」と述べた。

（綱島康之）